

令和3年度

# 事業計画

令和3年

公益財団法人 五島美術館

## ◆事業計画書

### I. 五島美術館(公益目的事業①)

#### 1. 展示事業

##### 1-1. 展覧会名とその概要

(1) [館蔵]春の優品展 ―古筆を知る―

2021年4月3日[土]—5月9日[日]

五島美術館と大東急記念文庫の収蔵品から、平安・鎌倉時代に書写された古筆を中心に、歌仙絵や工芸作品など約50点を展観(会期中一部展示替あり)。おもに江戸時代に活躍した筆跡鑑定家・古筆見にも目を向けながら、鑑定結果を記した「極札」などの付属資料も一部紹介する。

特別展示予定＝国宝「源氏物語絵巻 鈴虫一・鈴虫二・夕霧・御法」

4月29日[木・祝]—5月9日[日]

一般1000円／高・大学生700円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(5月3日は開館)、5月6日[木]

(2) [館蔵]近代の日本画展

2021年5月15日[土]—6月20日[日]

館蔵の近代日本画コレクションから、「花鳥画」を中心に、橋本雅邦、川端玉章、横山大観、川合玉堂、安田靉彦、前田青邨、川端龍子、金島桂華など、明治から昭和にかけての近代日本を代表する画家の作品約40点を選び展観する。大東急記念文庫収蔵品の特集展示「蔦屋重三郎と江戸の戯作者」も同時開催。

一般1000円／高・大学生700円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

(3) [館蔵]夏の優品展 ―清涼消暑の美―

2021年6月26日[土]—8月1日[日]

五島美術館と大東急記念文庫の収蔵品から、「涼」をテーマに絵画、書跡、陶芸の優品約50点を展観(会期中一部展示替あり)。日本画に表された瀑布や消暑風景、清雅な禅宗の墨跡、秋・冬の和歌を詠じた古筆、涼やかな青磁や白磁、藍色が美しい青花のやきものなどを紹介する。特集展示として館蔵の漆芸コレクションも同時公開。

一般1000円／高・大学生700円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

館内整備のため休館＝2021年8月2日[月]—8月27日[金]

(4) [館蔵]秋の優品展 —桃山の華—

2021年8月28日[土]—10月17日[日]

五島美術館と大東急記念文庫の収蔵品から、琳派絵画、書、工芸、古典籍など、桃山・江戸時代の優品約50点を選び展観(会期中一部展示替あり)。時代の美意識を映した華やかな名品の数々を紹介する。特集展示として館蔵の日本陶磁コレクションも同時公開。

特別展示予定＝国宝「紫式部日記絵巻 五島本第一・二・三段」

10月9日[土]—10月17日[日]

一般1000円／高・大学生700円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(9月20日は開館)、9月21日[火]

(5) [特別展]アジアのうつわわーど —町田市立博物館所蔵陶磁・ガラス名品展—

2021年10月23日[土]—12月5日[日]

町田市立博物館が所蔵する陶磁とガラスのコレクション約100点を展観。漢時代の加彩や唐時代の白磁などの鑑賞陶磁から明時代の輸出磁器に至る中国陶磁、ベトナム・タイ・ミャンマーなどで製作された東南アジア陶磁、そして鼻煙壺や色鮮やかな清時代の中国ガラスなど、さまざまなアジアの国の個性豊かなうつわを集め、「アジアのうつわわーど」を展望する。

一般1300円／高・大学生1000円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

(6) [館蔵]茶道具取合せ展

2021年12月11日[土]—2022年2月13日[日]

展示室に当館茶室「古経楼」「松寿庵」「富士見亭」の床の間原寸模型をしつらえ、館蔵の茶道具コレクションから約70点を選び展示(会期中一部展示替あり)。懐石道具・炭道具のほか、名物茶道具を中心に道具の取合せを展観する。

一般1000円／高・大学生700円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(1月10日は開館)、12月25日[土]—1月4日[火]、1月11日[火]

(7) [館蔵]中国の陶芸展

2022年2月19日[土]—3月27日[日]

漢時代から明・清時代にわたる館蔵の中国陶磁器コレクション約60点を展観。戦国時代の計量道具から、唐三彩の壺、宋時代の砧青磁、明時代の青花・五彩まで、時代順に展示し、2000年にわたる中国のやきものの歴史を展望する。特集展示として館蔵の古鏡コレクションも同時公開。

一般1000円／高・大学生700円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(3月21日は開館)、3月22日[火]

## 1-2. 入館者数(目標)

2021年度の入館者数は合計で5万8千人の獲得を目標とする。このうち秋の特別展については、過去5年間の特別展の実績をもとに、会期中に1万5千人の入館を想定している。

(単位:入館者=人、開館日=日)

	有料	無料	計	入園者	合計	開館日	一日平均
(1) [館蔵]春の優品展 ―古筆を知る― <2021年4月3日[土]—5月9日[日]>	7,776	736	8,512	448	8,960	32	280
(2) [館蔵]近代の日本画展 <2021年5月15日[土]—6月20日[日]>	8,224	512	8,736	224	8,960	32	280
(3) [館蔵]夏の優品展 ―清涼消暑の美― <2021年6月26日[土]—8月1日[日]>	4,064	608	4,672	128	4,800	32	150
(4) [館蔵]秋の優品展 ―桃山の華― <2021年8月28日[土]—10月17日[日]>	6,292	528	6,820	220	7,040	44	160
(5) [特別展]アジアのうつわわーど ―町田市立博物館所蔵陶磁・ガラス名品展― <2021年10月23日[土]—12月5日[日]>	12,464	2,356	14,820	760	15,580	38	410
(6) [館蔵]茶道具取合せ展 <2021年12月11日[土]—2022年2月13日[日]>	7,144	799	7,943	188	8,131	47	173
(7) [館蔵]中国の陶芸展 <2022年2月19日[土]—3月27日[日]>	4,512	448	4,960	192	5,152	32	161
【合計】	50,476	5,987	56,463	2,160	58,623	257	228

## 1-3. 付帯事業

展示事業に関連して、美術館と展示・収蔵品を全国の不特定多数の方に紹介する効果がある東急グループの「五島美術館名品集」カレンダーの制作・監修や「源氏物語絵巻」をはじめ展示・収蔵品に因んだオリジナルグッズなどの制作・監修、館内ミュージアムショップ等での販売も実施する。

## 2. 調査・研究・保存事業

### (1) 美術品の調査・研究

美術品の調査・研究を継続し、新規収蔵品等を中心に調査を進める。より正確なデータベースを構築するため、デジタルアーカイブへの取組みを進める。

### (2) 蔵書・写真の整理

蔵書および写真の整理と登録を進める。

### (3) 美術品の補修

館蔵品のうちから、特に傷みの著しいもの、出陳頻度の高いものを優先し、その修理を行なう。本年度は「本阿弥切 伝 小野道風筆」(2ヶ年計画)を修復予定。

### (4) 美術品の保存

今後の保存対策のため、収蔵庫および展示室の環境測定を実施し、種々データを集める。また収蔵庫内の収納棚の保存環境および利用時における安全性を見直し、より効率的な収納ができる保存環境を目指す。作品を保護するための包裂や箱、刀剣の鞘などを順次修理し、保存・管理の安全性を向上させる。併せて防虫・防黴のため収蔵庫の燻蒸を実施する。

### (5) 美術品の貸出

他所の美術館・博物館への館蔵品の貸出要望に対しては、趣旨・開催期間などを十分検討し、保存上の留意をしつつ、社会教育の発展・普及の観点から貸出を許可し、出品する。

### (6) 会議・学会・研修会への参加

美術品にかかわる各種会議・学会・研修会へ参加し、研究成果を発表する。

- ・全国博物館大会、全国美術館会議、私立美術館会議、美術史学会、東洋陶磁学会、漆工史学会、茶の湯文化学会、書学書道史学会、文化財保存修復学会(大会出席)。
- ・各種研究会および研修会参加(染織文化史研究会、茶書研究会、文化庁企画展示セミナー、日本書道史研究会、日本博物館協会研究会、画賛研究会、源氏絵データベース研究会)。
- ・科学研究費助成事業への参加。

### (7) 博物館界・学会などへの協力

当館の加入する日本博物館協会、東京都博物館協議会、東洋陶磁学会、漆工史学会、全国美術館会議、私立美術館会議などの活動に積極的に協力するとともに、各種委員会や美術普及行事、学術文化の交流に関して専門学芸員の派遣など、当館の役割を果たしていく。また、受入れ態勢の許す限り博物館学および同実習教育を実施する。

### (8) ホームページ等の運営

五島美術館の公式ホームページ(URL=<https://www.gotoh-museum.or.jp/>)を充実し、インターネット上での美術館や収蔵品の紹介、展覧会の広報活動等を展開するために、コンテンツの拡充を目指す。また、館内での通信環境を再整備し、フェイスブック、ツイッターなどSNSの有効活用を促進する。

### (9) 研究紀要の編纂

研究活動の成果を紀要としてまとめる。執筆者は学芸部を中心とし、資料紹介や調査報告を含めた専門性の高い論考に、美術館・文庫の活動報告を合わせた体裁とする。

(10) 日本伝統工芸展への協賛

公益社団法人日本工芸会他の主催する同展への協賛を通じ、日本における伝統工芸の健全な発展に寄与する。

(11) 国等各種公共機関・団体・大学への協力と職員の派遣

国や各種公共団体の美術教育事業、専門機関への助言、職員の派遣等、美術館で必要と認められる対外活動を行なう。

### 3. 普及事業

(1) ギャラリートーク(展示解説)―一般入館者対象

- ・[館蔵]春の優品展 ―古筆を知る―

----- 2021年4月16日、30日、5月7日の3回

- ・[館蔵]近代の日本画展

----- 2021年5月20日、6月3日、17日の3回

- ・[館蔵]夏の優品展 ―清涼消暑の美―

----- 2021年7月7日の1回

- ・[館蔵]秋の優品展 ―桃山の華―

----- 2021年9月1日、15日、29日、10月13日、17日の5回

- ・[特別展]アジアのうつわわーど ―町田市立博物館所蔵陶磁・ガラス名品展―

----- 未定

- ・[館蔵]茶道具取合せ展

----- 2022年1月19日、26日の2回

- ・[館蔵]中国の陶芸展

----- 2022年2月24日、3月3日の2回

\* 上記展覧会の展示品を学芸部が解説する。

(2) 茶会(当館主催)―茶の友会会員対象

- ・第1回=2021年11月11日～14日の4日間

- ・第2回=2022年3月10日～13日の4日間

\* 上記茶会に使用する美術品について学芸部が解説する。

(3) 陶芸講座(当館主催)―美の友会会員対象

- ・第1回=2021年5月29日・30日 予定(定員未定)

- ・第2回=2021年9月25日・26日 予定(定員未定)

- ・第3回=2022年1月29日・30日 予定(定員未定)

#### (4) 美の友会月例美術講座(当館主催)―美の友会会員対象

美の友会会員を対象に下記のシリーズを、連続講座(各月 2～3 回)として(本年度 30 回)開催する。各回ともシリーズのテーマに即した主題を掲げ、当館の収蔵品やスライド映写をまじえてわかりやすい講座を行なう。

#### ◇書跡鑑賞シリーズXV「はじめての日本書道史」

五島美術館には、日本書道史を彩る名品の数々が所蔵されている。本講座では、これらの館蔵書跡を中心に取り上げながら、日本の書の歴史を紐解いてゆく。また、館蔵書跡の読み方も紹介する。全 10 回の連続講座を通して、日本の書の歴史に親しむことで展覧会での作品鑑賞の助けとする(第 1～6 回は 2020 年 9 月～2021 年 3 月実施)。

〈担当＝五島美術館学芸部 佐々木佑記〉

- 第 7 回 2021 年 4 月 3 日[土] 「墨跡と宸翰様―鎌倉・南北朝・室町時代」
- 第 8 回 2021 年 5 月 1 日[土] 「書流の展開と寛永の三筆―桃山・江戸時代」
- 第 9 回 2021 年 6 月 5 日[土] 「和様と唐様―江戸時代」
- 第 10 回 2021 年 7 月 3 日[土] 「近代の書の展開」

#### ◇染織鑑賞シリーズXIII「これだけは覚えてたい名物裂」

美術館や茶席などで鑑賞される作品には、歴史を物語る由緒ある名品が数多く存在する。同時に、唐絵・墨跡の表装、茶入・茶碗の仕覆など、それらに付属する染織品にも古い裂地が使用され、江戸時代には「名物裂」として知られるようになった。本講座はそのような染織文化財となった「名物裂」を厳選し、名品とともに紹介する(8 月は休講)。

〈担当＝五島美術館学芸部 佐藤留実〉

- 第 1 回 2021 年 4 月 10 日[土] 「名物裂基礎知識―金襴・緞子・間道」
- 第 2 回 2021 年 5 月 8 日[土] 「高僧の袈裟と名物裂」
- 第 3 回 2021 年 6 月 12 日[土] 「名画表具と名物裂」
- 第 4 回 2021 年 7 月 10 日[土] 「名物茶入の仕覆(1)」
- 第 5 回 2021 年 9 月 11 日[土] 「名物茶入の仕覆(2)」

#### ◇特別展鑑賞シリーズII「アジアのうつわ」

町田市立博物館が所蔵する中国・東南アジア陶磁、そして鼻煙壺を中心とするガラスの優品について解説し、本年開催の特別展である「アジアのうつわわーど展」(2021 年 10 月 23 日～12 月 5 日)を一層楽しんでもらうためのポイントを紹介する(8 月は休講)。

〈担当＝五島美術館学芸部 菅沢そわか(第 1～3 回)・田代裕一郎(第 4～6 回)〉

- 第 1 回 2021 年 4 月 17 日[土] 「中国陶磁(1)―漢～唐時代」
- 第 2 回 2021 年 5 月 15 日[土] 「中国陶磁(2)―宋時代」
- 第 3 回 2021 年 6 月 19 日[土] 「中国陶磁(3)―元～清時代」
- 第 4 回 2021 年 7 月 17 日[土] 「東南アジア陶磁(1)―ベトナム・ミャンマー」
- 第 5 回 2021 年 9 月 18 日[土] 「東南アジア陶磁(2)―タイ・カンボジア」
- 第 6 回 2021 年 10 月 16 日[土] 「ガラス―鼻煙壺を中心として」

#### ◇絵画鑑賞シリーズXI「絵巻の鑑賞—西行物語絵巻」

絵巻のうち、じっくり見たい名品を鑑賞する講座である。今回は、月や桜の和歌を数多く詠み、旅の歌人・僧として知られる西行(1118~90)を題材とした「西行物語絵巻」を取り上げる。西行が訪れた各地の景観を豊かに描いたこの絵巻には四季絵や名所絵の特色もあり、いわゆる〈物語(説話)絵巻〉と一味違う趣がある。鎌倉時代から江戸時代につくられた「西行物語絵巻」を通じて、鑑賞の際の楽しみ方を紹介する(11月は休講)。

〈担当＝五島美術館学芸部 下山來夏〉

- 第1回 2021年 9月 4日[土] 「西行物語絵巻について」
- 第2回 2021年 10月 2日[土] 「徳川美術館蔵 重要文化財 西行物語絵巻」
- 第3回 2021年 12月 4日[土] 「文化庁蔵 重要文化財 西行物語絵巻」
- 第4回 2022年 1月 8日[土] 「サントリー美術館蔵 西行物語絵巻」
- 第5回 2022年 2月 5日[土] 「采女本系 西行物語絵巻」
- 第6回 2022年 3月 5日[土] 「西行物語絵巻の広がり」

#### ◇陶磁鑑賞シリーズIX「名物記にあらわれる茶の湯道具」

五島美術館には茶の湯道具が約 150 件ある。この講座では、茶の湯道具のうち、名物記に記載のあるものを1点または2点とりあげ、画像で紹介し、名物記の記載、産地・制作年代・技法について現在わかる限りの情報や、その茶の湯道具にまつわるエピソードや鑑賞のポイントを解説する(11月は休講。次年度以降も継続予定)。

〈担当＝五島美術館学芸部 砂澤祐子〉

- 第1回 2021年 10月 9日[土] 「井戸茶碗 銘 美濃と銘 九重」
- 第2回 2021年 12月 11日[土] 「伯庵茶碗 銘 冬木と銘 朽木」
- 第3回 2022年 1月 15日[土] 「長次郎赤楽茶碗 銘 夕暮」
- 第4回 2022年 2月 12日[土] 「光悦黒楽茶碗 銘 七里」
- 第5回 2022年 3月 19日[土] 「瀬戸瓢形茶入 銘 春慶瓢箪」

#### ◇古典籍鑑賞シリーズIII「江戸の言葉遊びを楽しむ」

大東急記念文庫が所蔵する江戸時代から明治時代にかけて出版された言葉遊びの本を読む。気楽な笑いからひねった笑い、知らなきゃ笑えない当時の常識など、毎回テーマを変えて江戸の笑いの世界に案内する。

〈担当＝大東急記念文庫学芸部 長田和也〉

- 第1回 2021年 12月 18日[土] 「〇〇とかけて××と解く—謎かけ」
- 第2回 2022年 1月 22日[土] 「洒落の東西—地口・口合」
- 第3回 2022年 2月 19日[土] 「素人芝居いろいろ—俄・茶番」
- 第4回 2022年 3月 26日[土] 「絵を読み解く—判じ物」

#### (5) 青少年向け普及講座

小学生や中学生を対象に、美術や日本文化への理解を深めるための各種普及講座を開設する。現在予定している講座としては以下の通り。



① 「こども美術講座 日本画を知ろう」-----2021年 6月 6日[日]

② 小・中学校等へ出張講義に赴く予定(日程未定)

(6)ミュージアム・コンサート

音楽を通じて、芸術・文化に触れる機会を提供し、地域住民はじめ来館者に対して美術館の楽しみ方の一面を提示する。

① クァルテット・リゾナンツァによる弦楽四重奏演奏会(日程未定)

② 長唄演奏会一和のこころを聴く(日程未定)

(7)茶室特別公開

公開日=2021年5月26日[水](「館蔵 近代の日本画展」期間中)

2022年2月2日[水](「館蔵 茶道具取合せ展」期間中)

\*入館者を対象に、通常非公開の茶室「古経楼」「富士見亭」の解説を学芸部が行なう。

(8)東急グループとの連携事業

東急グループとの連携事業を推進することにより、美術館や展覧会に対する理解を深める様々な機会を提供する。

① 特別鑑賞会「東急グループ感謝のつどい」開催への協力

② 東急グループ主催の社会貢献活動(とうきゅうキッズプログラム、キラリプラスカレッジ等)への協力

③ 東急文化村「MY Bunkamura」とのタイアップ企画の実施

④ 「東急ロイヤルクラブ」との連携イベントの実施

⑤ 東急グループ「五島美術館名品集」カレンダーの制作監修(展示事業1-3参照)

(9)他館等との連携事業

展示内容の親和性が高い根津美術館、三井記念美術館、近隣の静嘉堂文庫美術館、世田谷美術館をはじめ、他の美術館・博物館など文化施設等との連携事業を積極的に推進する。

(10)インバウンド需要への対応

インバウンド需要に対応するため、今後も引き続いて館内施設やホームページの表記等の具体的対策を進めていく。

(11)4K映像の上映再開

展示公開期間に制約がある国宝「源氏物語絵巻」の4K映像の常時上映を再開して、遠来の来館者の期待に応じていく。

以上

## II. 大東急記念文庫(公益目的事業②)

### 1. 閲覧事業

#### (1) 図書閲覧

書誌学、国文学等の学術研究に資するため、大学生以上の学術研究者を対象に閲覧業務を行なう(許可制)。

#### (2) 展示

五島美術館の展示に協力するとともに、他館からの出陳の要請は検討の上、貸し出す。

### 2. 調査・研究・保存事業

#### (1) 図書調査

収蔵の古典籍資料調査を行なう。

#### (2) 図書収集

研究・閲覧に資する参考資料(辞典、叢書、全集、記録類等)や、必要な場合は古典籍資料を購入する。

#### (3) 研究発表

図書調査・研究活動等に基づき、書誌学、文化史学、国文学、美術史学等の研究の成果を機関誌「かがみ」その他、学術専門誌に発表する。

#### (4) 図書保存

- ・文庫収蔵庫内の和古書と参考書誌、図書資料等との分離収納作業を継続する。
- ・本年度も引き続き、収蔵資料の保存状態を調査し、修理・補修リストを作成する。
- ・収蔵庫内の防虫、防塵、防湿、防災には万全を期し、予防策として本年も IPM(総合的有害生物管理)を実施する。新収資料の防虫には特に留意する。
- ・不慮の災害に備え、資料の写真撮影などの副本作りを継続的に進める。本年度も『大般若波羅蜜多経』(鎌倉中期写本)等を撮影する。

#### (5) 図書修理

新収蔵資料の帙箱の新装、未表装資料の表装を行なう。

#### (6) 出版物の編集・刊行・頒布・委託出版

- ・継続刊行中である「大東急記念文庫善本叢刊中古・中世篇」の第 29 回配本第 15 巻「国史・古記録・寺誌」、第 30 回配本第 17 巻「美術」、第 31 回配本第 18・19 巻「古文書・名家筆蹟」の刊行準備をする。

- ・機関誌「かがみ」第 52 号を編集発行する。
- ・既刊の講演録、影印本、マイクロフィルム等を頒布する。

(7) 普及

- ・各種団体(大学・研究会・図書館等)の要請による研究会、展示説明会等があれば、これに応じる。
- ・文庫刊行の出版物等を友好機関に寄贈する。また、友好機関、個人から受贈した出版物等は、閲覧研究に供するとともに、整理して保存する。
- ・各種団体等・個人から多数の撮影、出版、放映、翻印等の許可申請があるが、厳しく検討して許可する。

(8) 国等各種公共機関・団体、大学への協力と職員の派遣

国や各種公共団体の研究会等への参加、助言、職員の派遣等、文庫の事業運営上必要と認められる対外活動を行なう。

以 上

# 収支予算書

令和 3年 4月 1日から令和 4年 3月31日まで

公益財団法人五島美術館

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[ 6,561,000]	[ 11,530,000]	[△ 4,969,000]
特定資産運用益	[ 0]	[ 10,000]	[△ 10,000]
公益事業収益	[ 118,965,000]	[ 155,074,000]	[△ 36,109,000]
受取補助金	[ 2,000,000]	[ 2,849,000]	[△ 849,000]
受取寄付金	[ 219,528,000]	[ 213,868,000]	[ 5,660,000]
雑収	[ 50,000]	[ 70,000]	[△ 20,000]
経常収益計	347,104,000	383,401,000	△ 36,297,000
(2) 経常費用			
事業費	[ 327,723,000]	[ 365,059,000]	[△ 37,336,000]
管理費	[ 32,350,000]	[ 29,115,000]	[ 3,235,000]
経常費用計	360,073,000	394,174,000	△ 34,101,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 12,969,000	△ 10,773,000	△ 2,196,000
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 12,969,000	△ 10,773,000	△ 2,196,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
指定正味財産へ振替	[ 2,000,000]	[ 0]	[ 2,000,000]
経常外費用計	2,000,000	0	2,000,000
当期経常外増減額	△ 2,000,000	0	△ 2,000,000
当期一般正味財産増減額	△ 14,969,000	△ 10,773,000	△ 4,196,000
一般正味財産期首残高	970,528,603	981,301,603	△ 10,773,000
一般正味財産期末残高	955,559,603	970,528,603	△ 14,969,000
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	[ 0]	[ 6,000,000]	[△ 6,000,000]
一般正味財産からの振替額	[ 2,000,000]	[ 0]	[ 2,000,000]
一般正味財産への振替額	[△ 219,528,000]	[△ 69,868,000]	[△ 149,660,000]
当期指定正味財産増減額	△ 217,528,000	△ 63,868,000	△ 153,660,000
指定正味財産期首残高	3,608,581,190	3,732,449,190	△ 123,868,000
指定正味財産期末残高	3,391,053,190	3,668,581,190	△ 277,528,000
III 正味財産期末残高	4,346,612,793	4,639,109,793	△ 292,497,000

(注) II 指定正味財産増減の部における予算額・期首残高と前年度予算額・期末残高の差額は、前年度に実施予定の特定資産・積立預金の取崩額 6,000 万円。

# 収支予算書

令和 3年 4月 1日から令和 4年 3月31日まで

公益財団法人五島美術館

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[ 6,561,000]	[ 11,530,000]	[△ 4,969,000]
基本財産受取利息	4,738,000	9,426,000	△ 4,688,000
基本財産受取配当	1,823,000	2,104,000	△ 281,000
特定資産運用益	[ 0]	[ 10,000]	[△ 10,000]
特定資産受取利息	0	10,000	△ 10,000
公益事業収益	[ 118,965,000]	[ 155,074,000]	[△ 36,109,000]
展示事業収益	51,757,000	69,890,000	△ 18,133,000
調査研究事業収益	5,970,000	13,788,000	△ 7,818,000
普及事業収益	14,620,000	19,000,000	△ 4,380,000
文庫事業収益	1,700,000	1,700,000	0
カレンダー一収益	35,818,000	38,096,000	△ 2,278,000
売店収益	9,100,000	12,600,000	△ 3,500,000
受取補助金等	[ 2,000,000]	[ 2,849,000]	[△ 849,000]
受取国庫補助金	0	1,965,000	△ 1,965,000
受取地方公共団体補助金	0	884,000	△ 884,000
受取補助金その他	2,000,000	0	2,000,000
受取寄付金	[ 219,528,000]	[ 213,868,000]	[ 5,660,000]
受取寄付金	0	144,000,000	△ 144,000,000
受取寄付金振替額	219,528,000	69,868,000	149,660,000
雑収益	[ 50,000]	[ 70,000]	[△ 20,000]
雑収益	50,000	70,000	△ 20,000
経常収益計	347,104,000	383,401,000	△ 36,297,000
(2) 経常費用			
事業費	[ 327,723,000]	[ 365,059,000]	[△ 37,336,000]
役員報酬	5,881,000	6,529,000	△ 648,000
給料	93,478,000	92,160,000	1,318,000
臨時雇賃金	15,442,000	20,205,000	△ 4,763,000
退職給付費用	12,836,000	13,788,000	△ 952,000
福利厚生費	16,704,000	15,956,000	748,000
旅費	346,000	346,000	0
交通費	202,000	202,000	0
交通減価償却費	102,000	102,000	0
消耗什器備品費	5,306,000	5,306,000	0
減価償却費	69,500,000	70,497,000	△ 997,000
消耗什器備品費	1,556,000	1,556,000	0
修繕費	1,253,000	1,253,000	0
修繕費	7,000,000	5,500,000	1,500,000
印刷製本費	2,000,000	5,349,000	△ 3,349,000
宣伝費	11,741,000	14,757,000	△ 3,016,000
光熱費	8,556,000	8,556,000	0
保険料	7,290,000	7,290,000	0
諸謝金	896,000	896,000	0
租税公課	150,000	150,000	0
庭園管理費	520,000	6,020,000	△ 5,500,000
委託費	5,046,000	5,046,000	0
展覧会費	13,475,000	13,475,000	0
調査研究費	8,475,000	18,990,000	△ 10,515,000
雑費	10,586,000	15,456,000	△ 4,870,000
カレンダー制作費	5,500,000	7,980,000	△ 2,480,000
雑費	1,118,000	1,119,000	△ 1,000
カレンダー制作費	16,500,000	17,864,000	△ 1,364,000

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
シ ョ ッ プ 原 価	6,264,000	8,711,000	△ 2,447,000
管 理 費	[ 32,350,000]	[ 29,115,000]	[ 3,235,000]
役 員 報 酬	3,920,000	4,352,000	△ 432,000
給 料 手 当	17,049,000	13,347,000	3,702,000
退 職 給 付 費 用	1,425,000	1,532,000	△ 107,000
福 利 厚 生 費	2,765,000	2,641,000	124,000
会 費 交 通 費	310,000	310,000	0
旅 費 交 際 費	398,000	398,000	0
交 通 信 運 搬 費	210,000	210,000	0
減 価 償 却 費	338,000	338,000	0
消 耗 什 器 備 品 費	3,660,000	3,712,000	△ 52,000
消 耗 品 費	53,000	53,000	0
印 刷 製 本 費	105,000	105,000	0
光 熱 水 料 費	64,000	64,000	0
諸 謝 金 費	379,000	379,000	0
雑 費	1,464,000	1,464,000	0
	210,000	210,000	0
経常費用計	360,073,000	394,174,000	△ 34,101,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 12,969,000	△ 10,773,000	△ 2,196,000
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 12,969,000	△ 10,773,000	△ 2,196,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
指 定 正 味 財 産 へ 振 替	[ 2,000,000]	[ 0]	[ 2,000,000]
受 取 寄 付 金 振 替 額	2,000,000	0	2,000,000
経常外費用計	2,000,000	0	2,000,000
当期経常外増減額	△ 2,000,000	0	△ 2,000,000
当期一般正味財産増減額	△ 14,969,000	△ 10,773,000	△ 4,196,000
一般正味財産期首残高	970,528,603	981,301,603	△ 10,773,000
一般正味財産期末残高	955,559,603	970,528,603	△ 14,969,000
II 指定正味財産増減の部			
受 取 寄 付 金	[ 0]	[ 6,000,000]	[△ 6,000,000]
一 般 正 味 財 産 か ら の 振 替 額	[ 2,000,000]	[ 0]	[ 2,000,000]
受 取 寄 付 金 振 替 額	2,000,000	0	2,000,000
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	[△ 219,528,000]	[△ 69,868,000]	[△ 149,660,000]
受 取 寄 付 金	△ 219,528,000	△ 69,868,000	△ 149,660,000
当期指定正味財産増減額	△ 217,528,000	△ 63,868,000	△ 153,660,000
指定正味財産期首残高	3,608,581,190	3,732,449,190	△ 123,868,000
指定正味財産期末残高	3,391,053,190	3,668,581,190	△ 277,528,000
III 正味財産期末残高	4,346,612,793	4,639,109,793	△ 292,497,000

(注) II 指定正味財産増減の部における予算額・期首残高と前年度予算額・期末残高の差額は、前年度に実施予定の特定資産・積立預金の取崩額 6,000 万円。